

## 第 8 節 特筆すべき動物

### 第 1 項 オオタカ・ハイタカ

#### 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表 4 - 8 - 1 に示したとおり、平成 22 年 4 月及び平成 23 年 1 月から 3 月にかけて実施した。

表 4 - 8 - 1 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第 1 回	平成 22 年 4 月 14 日	6:00 ~ 13:00	生息確認調査
第 2 回	平成 23 年 1 月 14 日	7:00 ~ 13:00	
第 3 回	平成 23 年 2 月 25 日	6:30 ~ 13:00	
第 4 回	平成 23 年 3 月 23 日	6:30 ~ 13:00	

#### 1 - 2 調査地点

調査地点は図 4 - 8 - 1 に示したとおりであり、最終処分場工事区域を広く見渡せる 2 地点で実施した。

#### 1 - 3 調査方法

調査は定点観察（8 倍程度の双眼鏡及び 25 ~ 30 倍程度の望遠鏡を使用）により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は無線機を用いて調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとした。

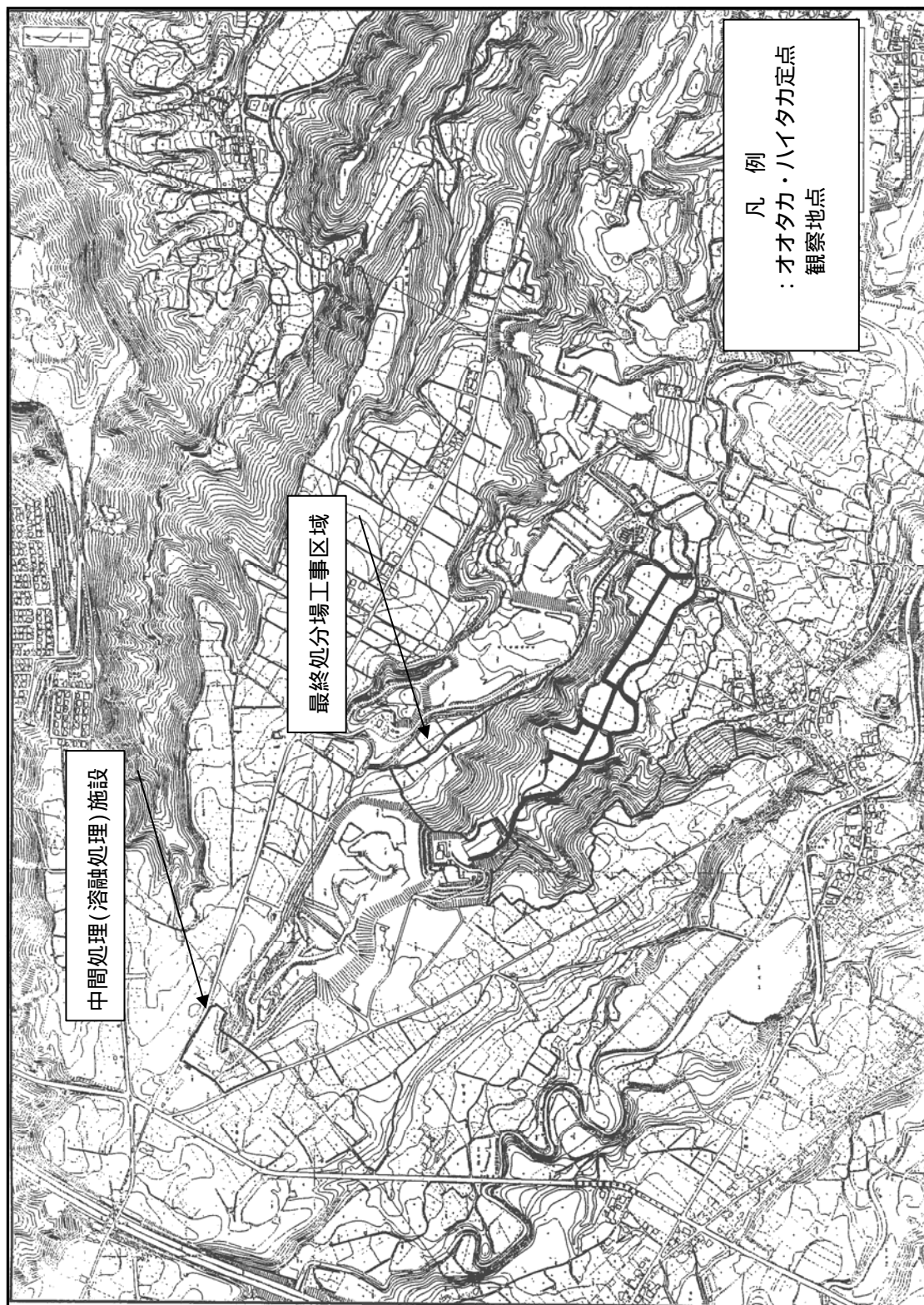


図 4 - 8 - 1 オオタカ・ハイタカ調査地点

#### 1 - 4 調査結果

調査の結果、表 4 - 8 - 2 に示したとおり、オオタカ、ハイタカを各 1 例確認した。

確認状況は、いずれも飛翔のみで、繁殖を示唆する行動（餌運び、巣材運び等）は確認できなかった。

確認位置は、図 4 - 8 - 2 に示したとおりである。

表 4 - 8 - 2 オオタカ・ハイタカ確認状況

	種名	確認年月日	確認時間	雌雄・年齢	確認状況
1	オオタカ	平成 22 年 4 月 14 日	8:26 ~ 8:26	不明・不明	最終処分場工事区域外北側をカラスに追われながら東方向へ飛翔する 1 個体を確認 そのまま東方向へ飛去した
2	ハイタカ		9:37 ~ 9:38	不明・不明	最終処分場工事区域東側を旋回しながら南下する 1 個体を確認 そのまま南方向へ飛去した

注：表中の 図 4 - 8 - 2 の に対応する。

#### 1 - 5 まとめ

調査の結果、オオタカ・ハイタカの生息を確認した。

確認状況は、いずれも飛翔のみであり、繁殖を示唆する行動（餌運び、巣材運び等）を確認しなかったことから、最終処分場工事区域内又はその周辺での繁殖の可能性はないものと考えられる。

また、最終処分場工事区域の北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境( <sup>ねぐら</sup> 埒 )として多数利用している。

さらに、カラス同士のなわばり争いや、他の鳥類（トビ等）への攻撃なども頻繁に行われていることから、本地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の繁殖及び生息には適さない環境であると考えられる。

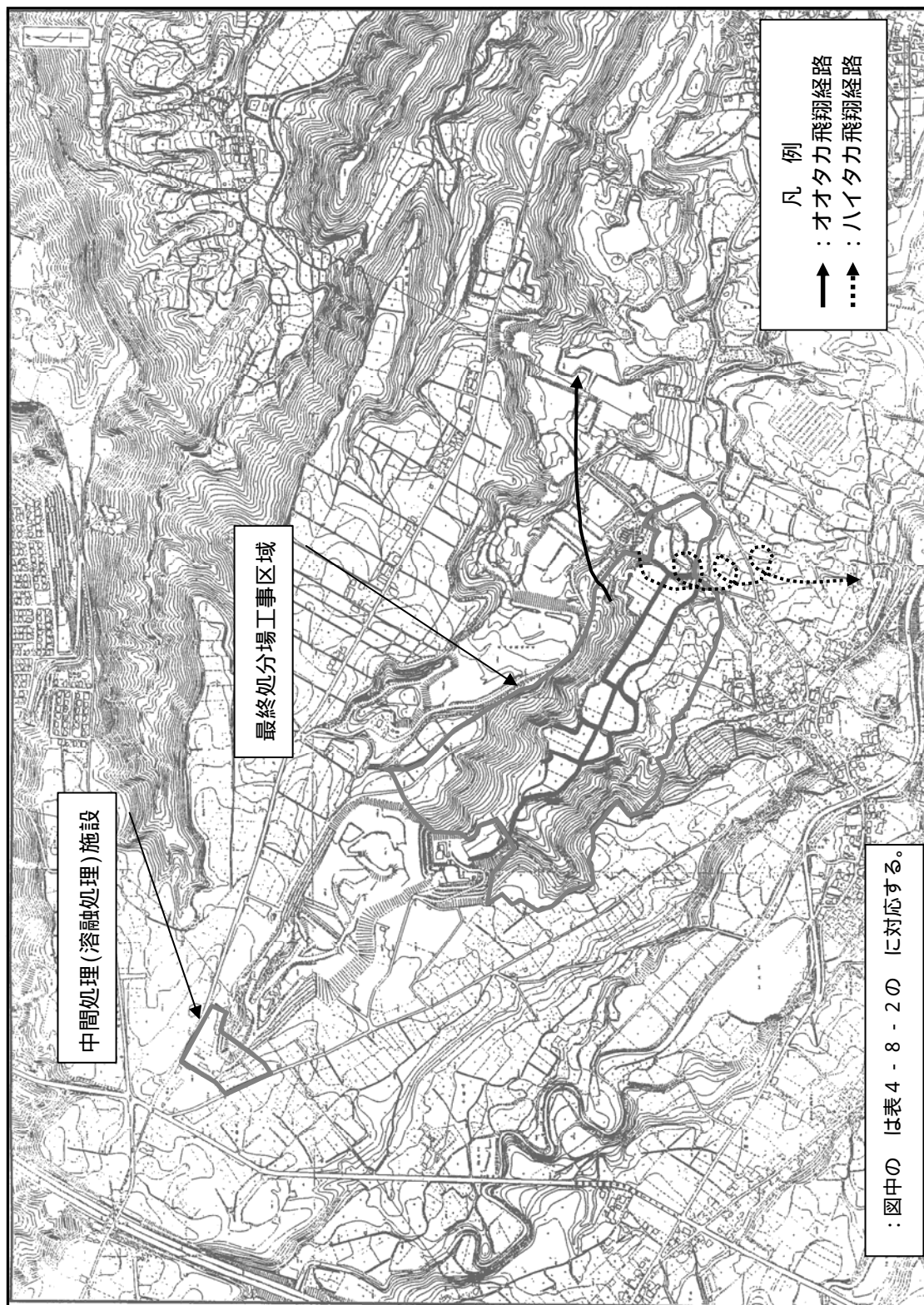


図4-8-2 オオタカ・ハイタカ確認状況

## 第2項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ・サシバ等

### 2 - 1 調査年月日及び調査内容

調査は表4 - 8 - 3に示したとおり、渡り鳥として確認される可能性のあるサシバ等、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイを5月に、冬鳥であるタゲリを12月に、夜行性の種であるアオバズクを5月の夜間に実施した。

表4 - 8 - 3 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
チュウサギ サンショウクイ	平成22年 5月18日	任意観察調査
サシバ コチドリ コマドリ キビタキ		
タゲリ	平成22年12月17日	
アオバズク	平成22年 5月18日	

### 2 - 2 調査範囲

調査範囲は図4 - 8 - 3に示したとおり、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

### 2 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

### 2 - 4 調査結果

調査の結果、対象とした8種(チュウサギ・サンショウクイ・サシバ・コチドリ・コマドリ・キビタキ・タゲリ・アオバズク)のいずれも確認することができなかった。

### 2 - 5 まとめ

調査の結果、対象種のいずれの生息も確認できなかった。

今後、最終処分場の建設工事が進むことで、当該地域内におけるこれらの種の生息環境は消失し、これらの種は当該地域を利用できなくなると考えられる。しかしながら、供用後には残存緑地や最終処分場東側に整備される調整池等の水辺環境等がこれらの種の生息環境(餌場環境)の一部として利用されるものと考えられる。

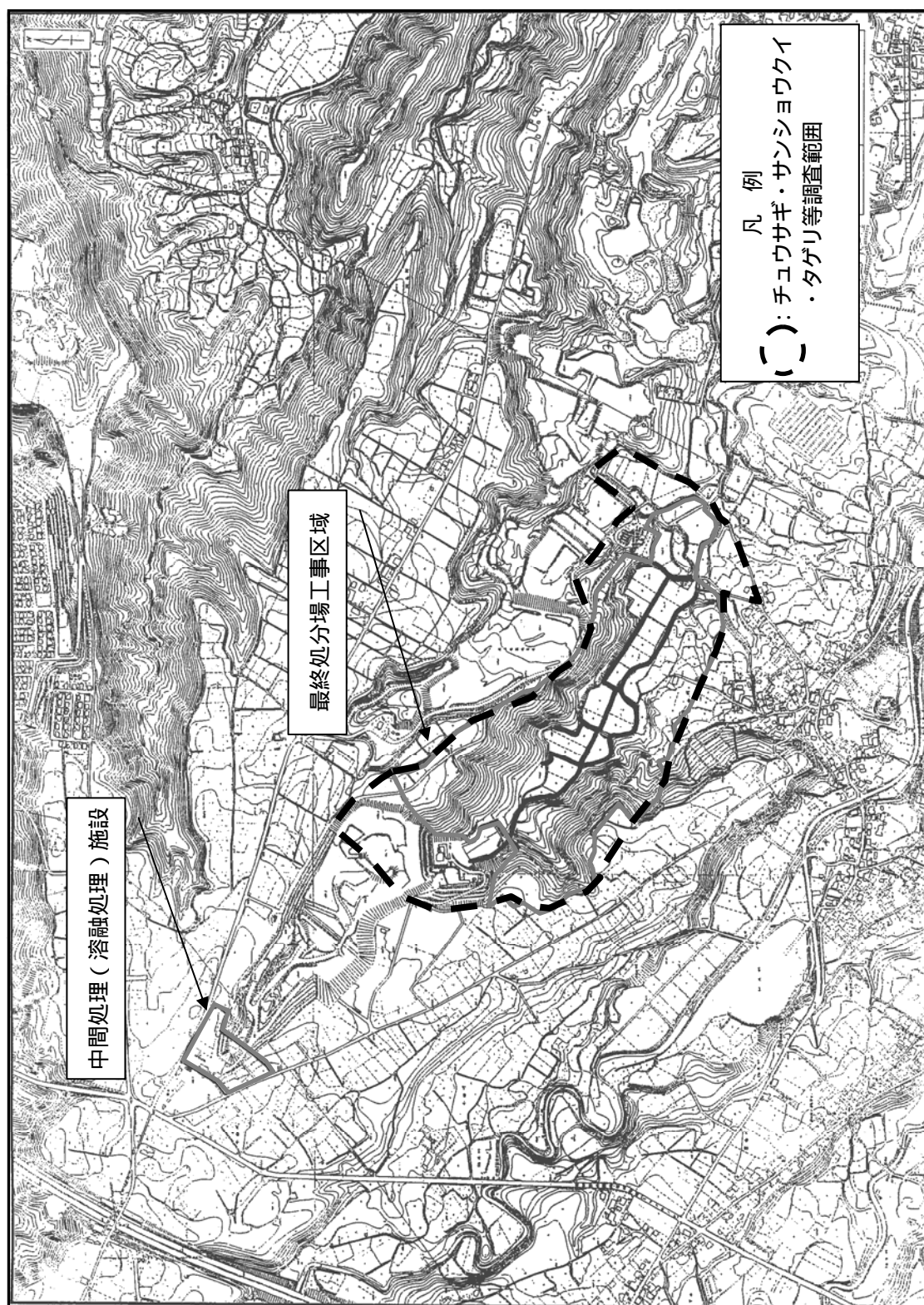


図 4 - 8 - 3 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ等調査範囲

### 第3項 フクロウ

#### 3 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表4 - 8 - 4に示したとおり、平成22年4月及び平成23年1月から3月にかけて実施した。

表4 - 8 - 4 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成22年4月19日	17:00～21:00	生息確認調査
第2回	平成23年1月25日	17:00～21:00	
第3回	平成23年2月23日	17:00～21:00	
第4回	平成23年3月22日	17:00～21:00	

#### 3 - 2 調査範囲

調査範囲は図4 - 8 - 4に示したとおりであり、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心にして、最終処分場工事区域内及びその周辺で実施した。

#### 3 - 3 調査方法

調査は夜間に実施し、調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

#### 3 - 4 調査結果

調査の結果、本種の生息は確認できなかった。

#### 3 - 5 まとめ

今回の調査では、本種は確認できなかったが、調査を実施した場所である最終処分場工事区域の北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用していることと、最終処分場工事区域及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられないことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと考えられる。



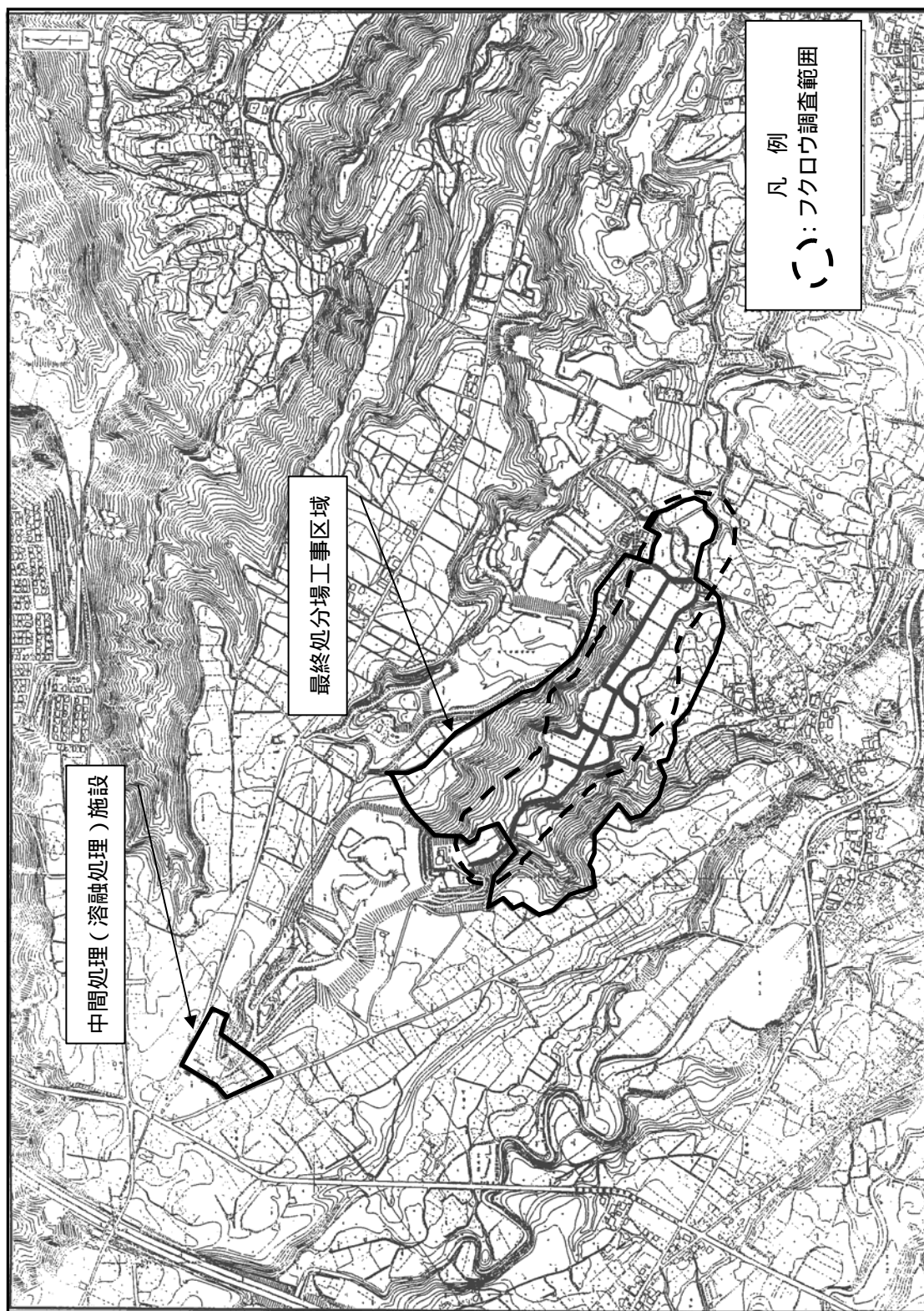


図 4 - 8 - 4 フクロウ調査範囲



#### 第4項 アカハライモリ・ニホンイシガメ

##### 4 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表4 - 8 - 5に示したとおりである。

表4 - 8 - 5 調査年月日及び調査内容

分類	調査対象種	調査年月日	調査内容
両生類	アカハライモリ	平成 22 年 7 月 9 日	生息確認調査
爬虫類	ニホンイシガメ		

##### 4 - 2 調査範囲

調査範囲は図4 - 8 - 5に示したとおりであり、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

##### 4 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

##### 4 - 4 調査結果

調査の結果、アカハライモリは最終処分場工事区域南側の水田脇水路付近を中心に、成体 117 個体、幼体 4 個体の計 121 個体を確認した。

また、ニホンイシガメは確認できなかった。

確認地点は図4 - 8 - 6に示したとおりである。

##### 4 - 5 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした両生類のアカハライモリのみの生息を確認した。

今後、最終処分場の建設工事が進むことで、当該地域内の生息環境は消失し、生息していた個体は一時的に周辺に退避するものと考えられる。しかしながら、供用後には最終処分場東側に調整池等が整備され、本種及び今回確認できなかったニホンイシガメの生息環境が創出されることで、両種とも再び当該地域を生息地として利用するものと考えられる。

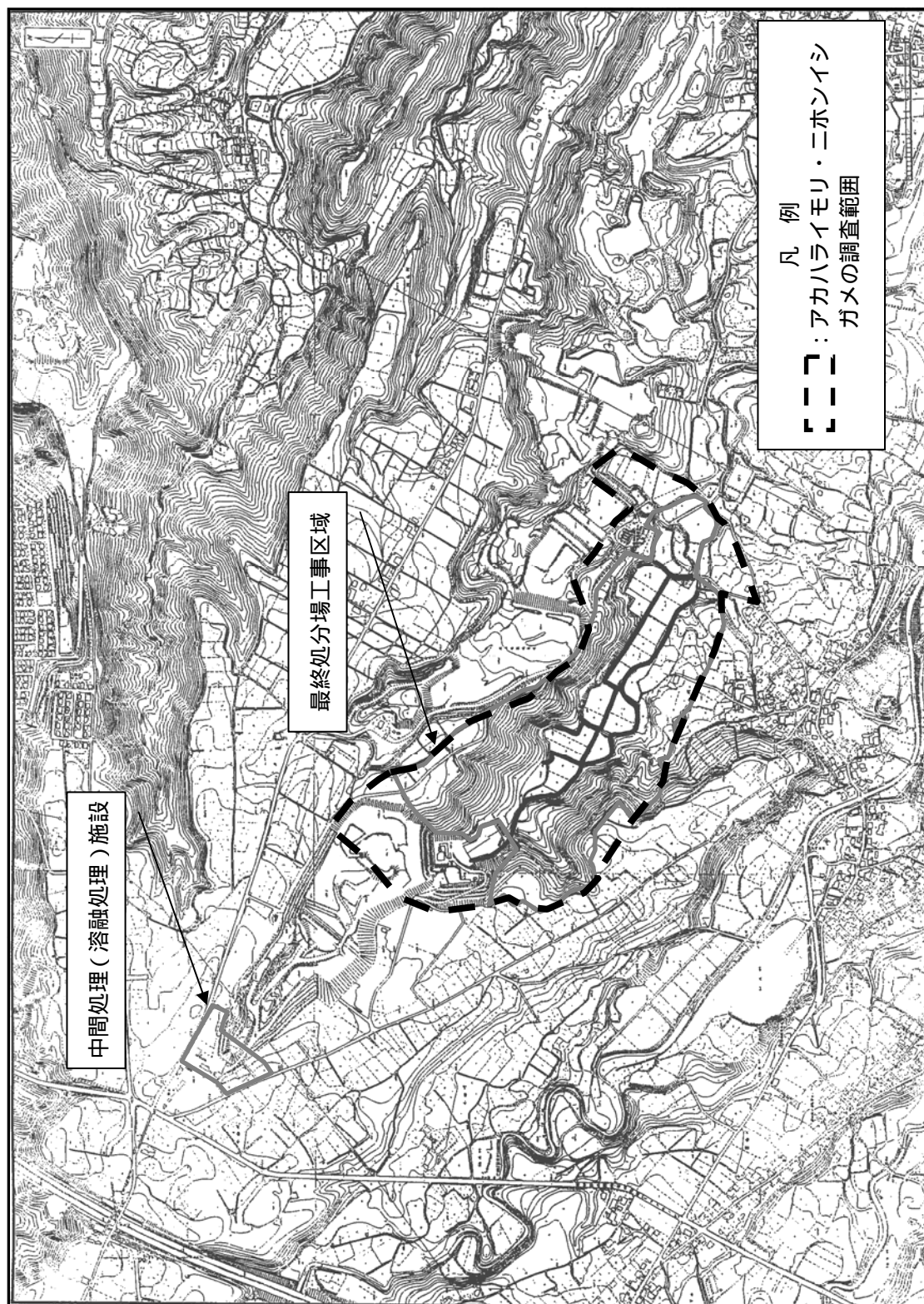


図 4 - 8 - 5 アカハライモリ・ニホンシシガメの調査範囲

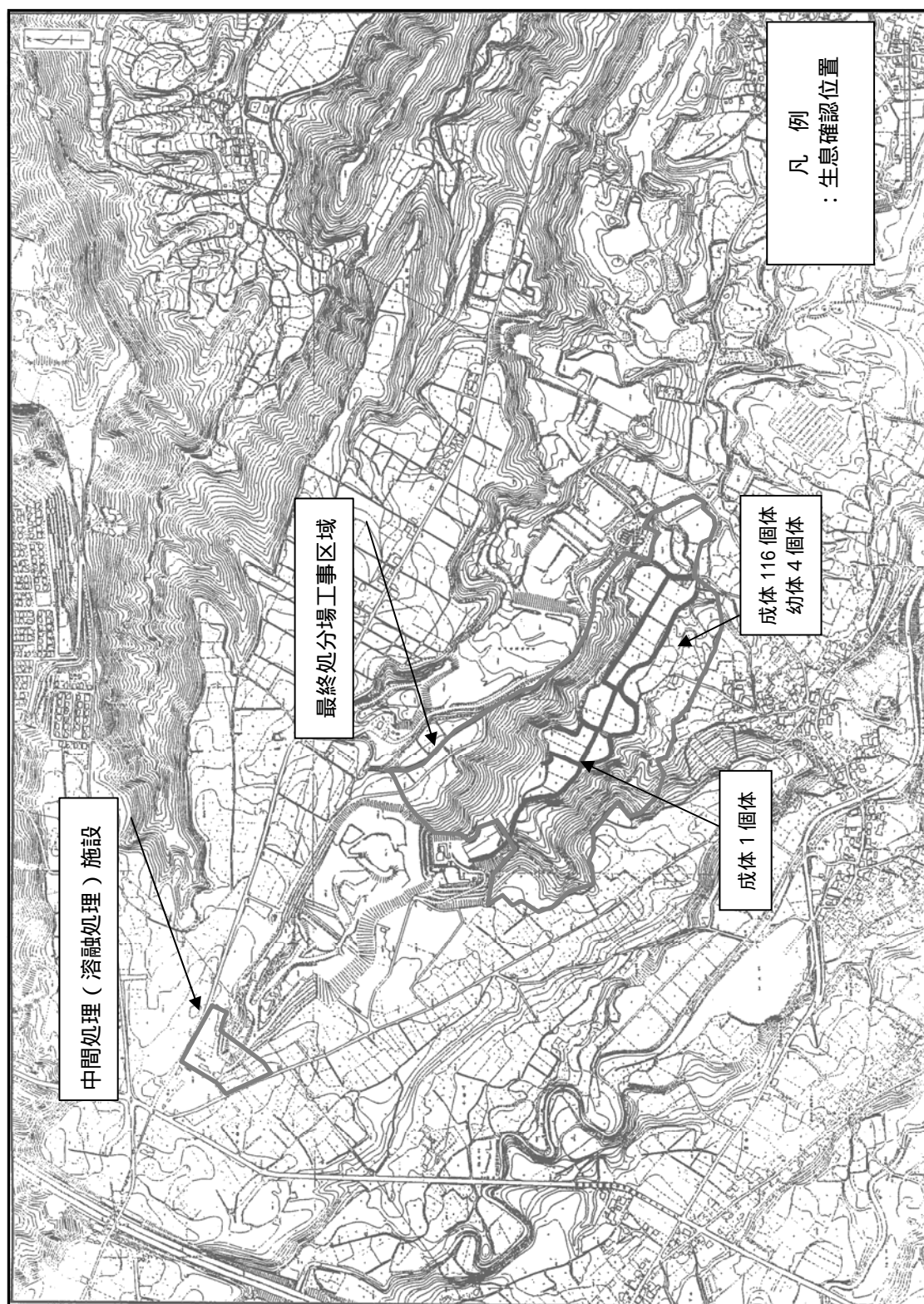


図 4 - 8 - 6 アカハライモリ確認位置

## 第5項 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等

### 5 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表4 - 8 - 6に示したとおりである。

表4 - 8 - 6 調査年月日及び調査内容

分類	調査対象種	調査年月日	調査内容
昆虫類	ムカシヤンマ オオクワガタ ミカドガガンボ ミズアブ オオイシアブ アオメアブ	平成22年7月9日	生息確認調査
クモ類	コガネグモ カワベコモリグモ アシナガカニグモ	平成22年7月9日 ～10日	
陸産 貝類	ヒラベッコウガイ ヒメビロウドマイマイ	平成22年7月9日	

### 5 - 2 調査範囲

調査範囲は図4 - 8 - 7に示したとおりであり、評価書における現況調査で本種を確認した場所を中心にして、最終処分場工事区域及びその周辺で実施した。

### 5 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

なお、クモ類については、任意観察調査の他、地上徘徊性の種を対象としたベイトトラップ（誘引餌を入れたプラスチックコップを地中に埋め、1晩放置した後、翌朝回収）による調査も実施した。

### 5 - 4 調査結果

調査の結果、ミカドガガンボを最終処分場工事区域内東側の林縁で1個体、アオメアブを最終処分場工事区域西側の水田脇で1個体、コガネグモを最終処分場工事区域内の広い範囲で計9個体を確認した。

確認地点は図4 - 8 - 8に示したとおりである。

その他の種は確認できなかった。

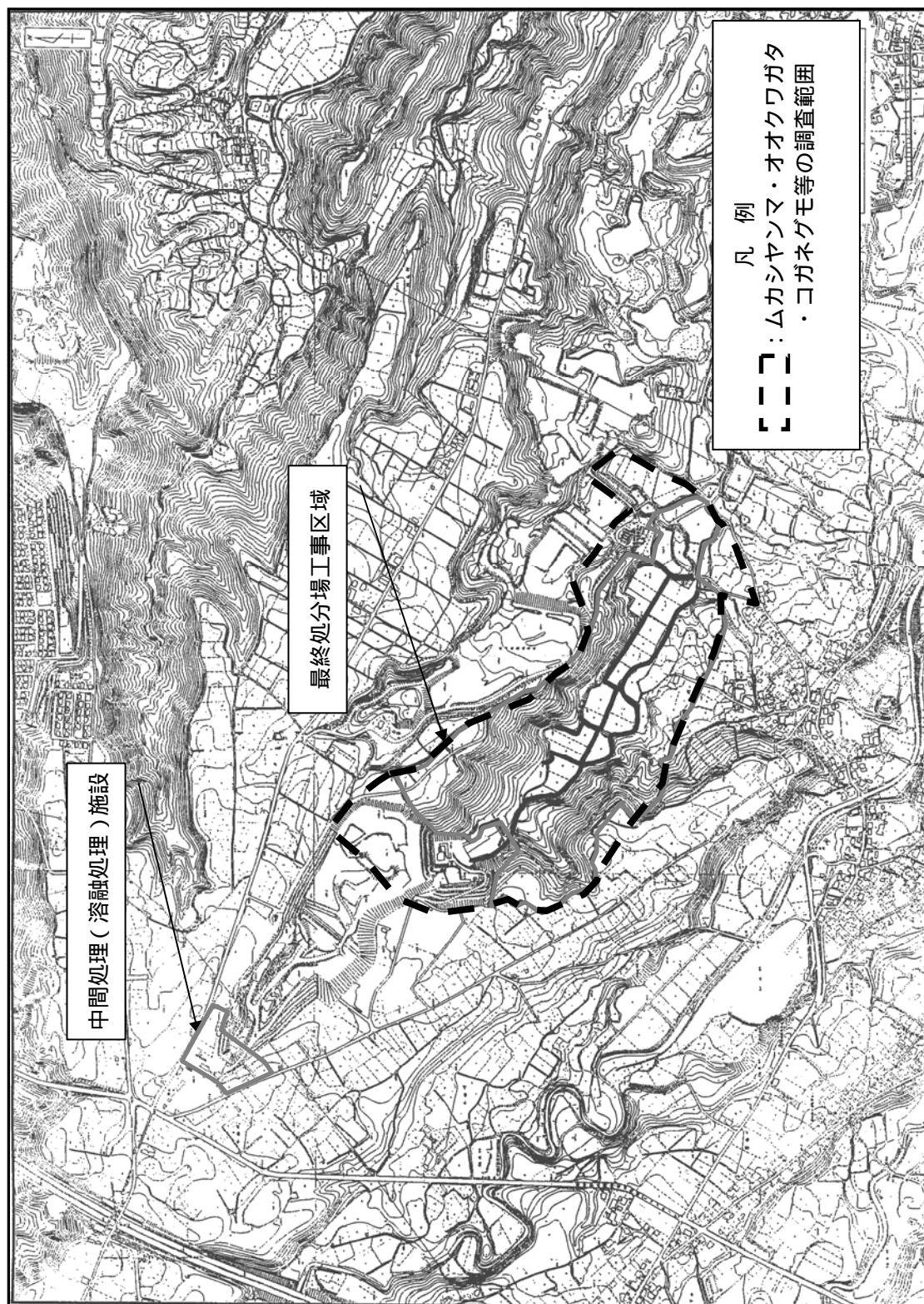


図 4 - 8 - 7 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等の調査範囲



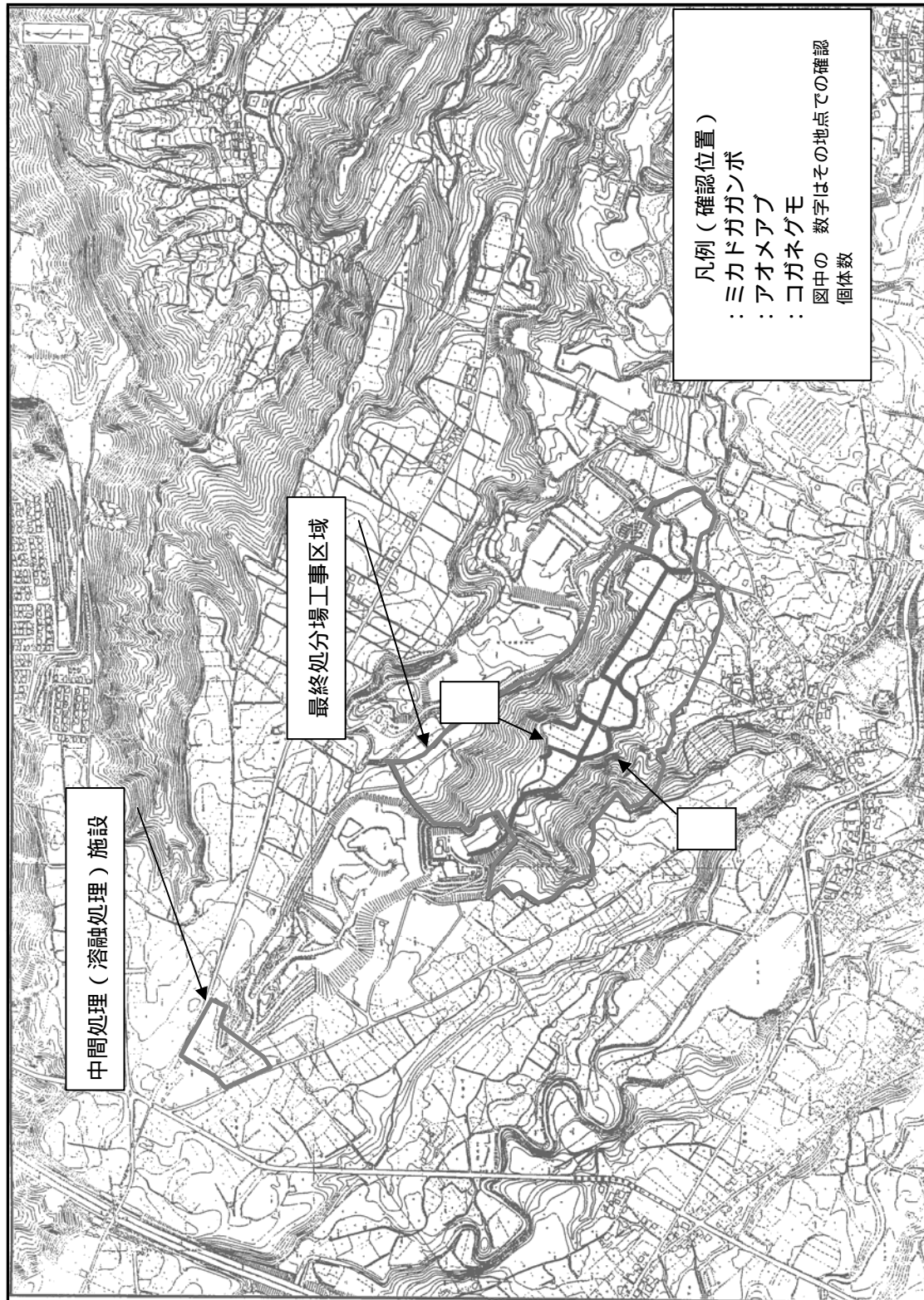


図 4 - 8 - 8 ミカドガガンボ等確認地点



#### 5 - 5 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした 11 種（ムカシヤンマ、オオクワガタ、コガネグモ、ヒラベッコウガイ等）のうち、ミカドガガンボ、アオメアブ、コガネグモの生息を確認した。

今後、最終処分場の建設工事が進むことで、当該地域内の生息環境は消失し、生息していた個体のうち、移動能力の高い種は一時的に周辺に退避するものと考えられる。しかし、供用後には残存緑地や最終処分場東側に整備される調整池等の水辺環境等がこれらの種の生息環境として利用されるものと考えられる。